

科目名 カラーコーディネーション								
担当教員		木下 聡子		実務授業の有無		○		
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年		1	開講時期		前期
必修・選択		必修		単位数		時間数		48時間
授業概要、目的、授業の進め方		色の基本的な仕組みや、人に与える心理効果を学び、配色の基本や環境の事例を通して学ぶ。 1. 色の働きと分類、視覚効果の基礎と重要性を学ぶ。 2. 人の心理と関係が深いことを認識し、環境に適した配色を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。						
学習目標 (到達目標)		色彩の基礎を学び、効果的なカラーコーディネートが出来るようになることを目標とする。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		色彩検定公式テキスト 新配色カード199用演習台紙 配色カード						
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	概要説明 ①科目概要について ②色の働きについて			科目概要について 色の働きについて (色の働きの種類と内容が説明できる)				
2	色の表示 ①色の分類と三属性 ②カラーオーダーシステムについて (色の三属性、PCCS等について説明できる)			色の分類と三属性・カラーオーダーシステムについて (色の三属性、PCCS等について説明できる)				
3	光と色 ①光と色の関係について (色はなぜ見えるのか説明できる)			光と色の関係について (色はなぜ見えるのか説明できる)				
4	色彩心理-1 ①色の心理的効果について (色の三属性と心理効果について説明できる)			色の心理的効果について (色の三属性と心理効果について説明できる)				
5	色彩心理-2 ①色の視覚効果について (色の対比現象等について説明できる)			色の視覚効果について (色の対比現象等について説明できる)				
6	色彩心理-3 ①色の知覚的効果について (色の錯視等について説明できる)			色の知覚的効果について (色の錯視等について説明できる)				
7	色彩調和 ①配色の基本的な考え方 ②三属性及びトーンから見た考え方、 ③配色技法			配色の基本的な考え方、技法について (基本的な考え方、三属性及びトーンから見た考え方、配色の技法について説明できる)				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
小テスト、課題、平常点を総合的に判断して評価する。 (課題を100%提出していない場合は評価の対象外とします。)				インテリアにおいて色彩は重要な要素のひとつです。色彩の基礎をしっかり身に付けて色を使いこなせるよう、定期的に小テスト等を行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。				
課題60%、小テスト35% 平常点5% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
実務経験教員の経歴 店舗内装、撮影衣装などに関する色のアドバイス等の業務に17年携わる。								

科目名 カラーコーディネーション								
担当教員		木下 聡子		実務授業の有無		○		
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年		1	開講時期		後期
必修・選択		必修		単位数		時間数		48時間
授業概要、目的、授業の進め方		色の基本的な仕組みや、人に与える心理効果を学び、配色の基本や環境の事例を通して学ぶ。 1. 色の働きと分類、視覚効果の基礎と重要性を学ぶ。 2. 人の心理と関係が深いことを認識し、環境に適した配色を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。						
学習目標 (到達目標)		色彩の基礎を学び、効果的なカラーコーディネートが出来るようになることを目標とする。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①色彩検定公式テキスト ②新配色カード199用演習台紙 ③配色カード						
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	概要説明 ①科目概要 ②色彩調和、 ③配色技法 ④色彩調和論			方法：教科書、教材、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②が理解できている 準備学習：教科書①の予習				
2	色が見える仕組み ①色が見える仕組み、 ②色の見えについて			方法：教科書、教材、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②が理解できている 準備学習：教科書①の予習				
3	色の測定 ①色の測定の種類、 ②色表示について			方法：教科書、教材、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②が理解できている 準備学習：教科書①の予習				
4	混色と色再現 ①混色の原理 ②色再現について			方法：教科書、教材、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②が理解できている 準備学習：教科書①の予習				
5	色彩の基礎 総合 ①色彩の基礎知識を総合的にまとめ			方法：教科書、教材、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①が理解できている 準備学習：教科書①の予習				
6	色彩計画と色彩表現 ①色彩計画 ②色彩表現			方法：教科書、教材、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②が理解できている 準備学習：教科書①の予習				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
小テスト、課題、平常点を総合的に判断して評価する。 (課題を100%提出していない場合は評価の対象外とします。)				インテリアにおいて色彩は重要な要素のひとつです。色彩の基礎をしっかり身に付けて色を使いこなせるよう、定期的に小テスト等を行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、教材や演習を繰り返し十分な解説を行う。				
課題55%、小テスト40% 平常点5% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
実務経験教員の経歴 店舗内装、撮影衣装などに関する色のアドバイス等の業務に17年携わる。								